

秋号

第315号

一粒の麦

社会福祉法人エデンの園
2019年10月19日

ひとつぶのむぎ



真夏の海で海水浴



コカコーラ工場見学



泡の感触体験



動物愛護センターで
命の大切さについて学習



SKBコンサート in
ふれあいサマーフェスタ



法ヶ岳公園でキャンプ



ドライブ先の公園で気分転換



公園の清掃



外出先で初めての寄せ植え体験



公園で楽しいランチ♪



SKB デイサービスで
出前コンサート

聖書のことば

一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。
しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。(聖書 ヨハネの福音書12章24節)

～ 誰もがサポートを受けて生きている ～

第1福祉課 課長 林 裕一

「療育」、特別支援教育や福祉の業界では昔から使われていますが、一般的にはまだまだ浸透していないのではないのでしょうか。それでは、「療育」って何でしょう？「療育」という言葉から連想するものとして、「がんばって、訓練をして障がいを軽減、克服する」というイメージを持つ方も少なくないのではないのでしょうか。「療育」の意味するところは、障がいを持ちつつ成長する子どもをいろいろな面から支える、総合的な取り組みにあると言われています（横浜市総合リハビリテーションセンター 療育の基本より）。もちろん、子どもの力を伸ばす、発達を促す試みもその中には含まれますが、それ以上に福祉道具の利用や環境の調整などによって、障がいがあっても一人ひとりが充実した生活を送ることができる、そのための支援が大切になってきます。支援を進めるためには、まずその人の障がいを正確に理解することが大切になります。その人の障がい理解できないでいると、無理強いしたり、誤った接し方になるなど、本人ばかりか、家族にも大きなマイナスになります。

小学1年生のAさんは、朝の着替えや出かける前の身支度などがとても苦手でした。やることがとても多く、次に何をしようか分からず、どうしても他の家族の行動やテレビが気になって動きが止まっていた。そこで、順番通りに行動すること、一人で着替えをすることを目標に、①朝ごはん②歯磨き③着替え④ランドセルを背負う⑤家を出る写真を準備し視覚的に示したスケジュールを使い始めた。結果、スケジュール表を見ながらスムーズに行動することが出来るようになりました。道具を使ったり、環境を整えることで、本人が何をしようか分からない苦痛から解放される事が出来ました（あくまでも支援の例です）。

私たちの生活ではどうでしょう。生活を営む上で不安を取り除くためにどのような事があるのか、どのような事をしているのか。仕事をする上では、就業規則や理念、行動規範、勤務表、マニュアル、手順書があり、どのように行動し、どのように仕事をすればいいのか分かる。勤務表を見れば「明日は休み

だ」と見通しが立ち、やる気と安心に繋がる。例えば、私が休暇を取って家族旅行に行くとしたら、家族の希望で東京に、私の様に田舎育ちで、都会に不慣れな者にとっては、「東京に行く」というだけで憂鬱でパニック状態です。不安を取り除き、見通しを立て、楽しい旅行とする為に入念な準備が必要です。ナビゲーションシステムをフル活用し構造化を図る事です。このように、私たちが充実した生活を送る為に私たちもいろいろなサポートを無意識に受けています。そう考えると障がいがあるからと特別視する必要はないのではないのでしょうか。少しだけ、多様なサポートを必要としているだけなのです。そう考えると、「療育」「発達支援」が身近に感じられるのではないのでしょうか。しかし、うまくいくことばかりではありません。そんな時は、川越理事長の言葉を思うようにしています。川越理事長は事ある毎にこのような言葉をかけて下さいます。「少しでも違ったところがあると、えっ おかしいぞ、違うぞと思ってしまう。だけど、みんな違ってみんな良い、違うことは良いんです」一人ひとりの発達のスピードも異なります。障がい特性も異なります。好きな事、出来ることも違います。「みんな違って、みんな良い」という言葉を聞くと救われます。みんな、みんなかけがえのない存在なんだと思います。そして、誰もがサポートを受けて生きている。この喜びを多くの人に感じて欲しいと思います。

